



ふなはし

議会だより

No.15/9月議会号
平成28年10月26日発行

子育て支援センター「ぶらんこ」

★図書館による出前おはなし会



みんな きいてるかな？



★おうちでヘアカットできるもん♪



★ママピクス&親子でタッチ

子育てしやすい環境づくりを
舟橋村議会も応援しています

- 子育て支援センター「ぶらんこ」 …… 1
- 9月定例会 一般質問 …… 2~6
- 視察研修報告・地方創生特別委員会報告 …… 7
- 9月定例会 平成27年度一般会計決算認定 …… 8
- 審議結果 …… 8

生かせ提言

現況と意見

問 京坪川河川公園と舟橋駅前公園の行事等連携の策は？

答 村民、各団体、事業者などが参画し、持ち味を発揮できる公園に

秋 弘 議員
森



問 村の「子育て共助のまちづくりプラン」の一行事として「子育てにやさしいパークマネジメント事業」を掲げ、村長は、「まったく新しい『きらり』と光るものを創り出せ」と言っておられる。

公園の整備は、ほぼ完成しつつあり、公園は、子供の遊び場及びエイジレスの世代か

ら、全世代間の交流の場所・健康維持の場所として、整備された公園及び今後整備をされる公園を含め、しっかりと活用をしていかねばならない。

投資額は、完成部分だけで4億円余り。多額の税金を投じて整備した施設を、中長期的にどのようにして村民にサービスを提供されるのか？ジツクリと考える、投資効果を目に見える形であらわして頂きたい。グローバルの時代。垣根を越え広域的に集い、2つの公園での同時イベントを開催してはどうか？小さな舟橋村が、素晴らしいイベントをし、キラリと輝く。

京坪川河川公園で

は、年中行事が定着しつつあるが、舟橋駅前公園との連携、賑わいの効果をどのように図るのか、役割分担、継続性、相乗効果等、難題は山積しているが、目の前だけを見るのではなく、先の方を見た「仕掛け」が必要であろう。村の中心部である地理的条件の良い一等地の公園で、いろいろなイベントを実施することは一つの手段であり、究極的には、日本一面積の小さな村を、住みよい魅力的な舟橋村として、県内外にどのように紹介をするのか？公園エリアを地方創生にどのように結び付けるのか。考えを問う。



野点 (京坪川河川公園)

答副村長 公園は、日常の遊びやレクリエーション、散策、休養、災害時の避難場所などの利用に加え、地域住民が多様なコミュニティ活動を営む拠点である。しかし、昨今ライフスタイルの多様化、地域コミュニティの希薄化、公園利用者のニーズとの乖離などを背景に公園は必ずしも住民の暮らしに十分活かされなくなっている現状もある。

このような中、舟橋駅前公園は今年5月に完成。この公園の整備にあたっては、管理を行う業者と地元自治会が愛着の持てる公園とするにはどうすれば良いか何度も協議を重ね、「自分達の公園」「地域の財産」として満足度の高い公園として完成を見たわけである。キッチンガーデンでは、学童保育に通う子供たちが大豆やさつまいもを植え、秋の収穫を楽しみにしている。

連携



京坪川河川公園の造成予定地



舟橋駅前公園

地区の交流事業であるバーベキュー大会もこの公園で行うと伺っている。小学生には、この公園の愛称を募集中で、決定すれば公園内に表示したいと考えている。このように人と人との繋がりを大切に、楽しさと愛着を実感できる「地域の庭」的な公園として、行政も関わっていきたい。

京坪川河川公園は、用地買収済のエリアを今年度中の完成に向けて事業を進めている。当初計画に基づく事業着手が平成8年なので、21年かけテニスコートエリアを含めた全体3.4haの公園が完成することとなる。河川公園の名前のとおり、河川区域も含めた緑豊かな自然環境と水辺空間をも備えた公園で、いろいろな事業の発表会場として、たくさんの方々にご利用いただいた。

春には、「サクラ・ミーツ・ザ・ファイアー」を開催し、村内外から

多くの若者の参加を得ている。夏には河川公園の特徴を生かした「魚のつかみどり大会」が開催され、秋には保育所の子供たちが「野点」に挑戦。3〜5歳児とエイジレス世代との交流事業も計画されている。

子育て共助のまちづくり事業として、河川公園に隣接した保育園建設計画について説明してきた。緑豊かなこの河川公園は、子供たちを健やかにそよびのびと保育でき、地域の子育てサポーターの方や、エイジレス世代との協働により地域ぐるみで見守る空間を形成することができると。この公園は、村の掲げる「もう一人子供を産みたい」と思える地域環境整備事業の重要なファクターである。

今後も、2つの公園が村民や各団体、事業者など多様な主体が参画し、それぞれの持ち

味を発揮することにより、人と自然が共生する安全で良好な村民の財産として地域の活性化、世代間交流、文化の場として活用されるようサポートしたいと考えている。



サクラ・ミーツ・ザ・ファイアー (京坪川河川公園)

用語の解説

※1 ICT
情報通信技術。情報処理や通信に関連する技術、産業、設備、サービスなどの総称。

※2 KPI
重要業績評価指標。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標。

問 ICT活用による子育てコミュニケーションづくりについて問う

答 ビッグデータを活用した地域人材の発掘・育成を行う

竹島 貴行 議員



ICT活用による子育てコミュニケーションづくりについて問う

村は、KPI(※2)を設定し、段階毎の指標達成を積み重ね最終成果を具現化すると説明している。総合戦略の一翼を担う、この「ICT活用による子育てコミュニケーションづくり」事業において、今後の様なストーリー展開を想定し、KPIを設定するための条件として明確性、計量性、達成可能性、結果の指向、期限をどの様に考え、段階毎の指標及び成果をどのように形作るのか、また社会実験としての事業の最終目標をどう考えているのか、具体的な説明を求めらる。

問 ICT(※1)活用による子育てコミュニケーションづくりに係る4者での連携協力事業に、社会実験業務委託費として1千万円の歳出がされる。主たる事業者である舟橋村として税金を単なる社会実験に使うことは許されない。この事業は村として成果を出す責任があり、住民へも説明できるものでなければならぬ。議会にも議決責任があり、この事業

答 生活環境課長 村総合戦略では、子育て

サービスの充実と地域コミュニケーションの推進により「子育て共助のまちづくり」を行い、5年間40件の子育て世代の人口流入と現在の合計特殊出生率1.45を2.07に上げることで、2060年の人口3155人を目指す。

去る6月30日、富山大学、NTT西日本富山支店、NTT・AT&Tの4者による「ICT活用による子育てコミュニケーションづくり」に係る連携協力に関する覚書の締結を行った。



「書画カメラ」を使った授業 (舟橋小学校)

事業内容は、平成28年度に初期段階として、子育て世代に役立ち、子育て世代間の共助を促すようなサービス実施である。

具体的には、子供用品の交換サービスや子育て日記サービス事業を展開することで、不要になった子供用品を必要とする世帯へ提供したり、子育てに悩む親に日記形式で経験やアドバイスを伝える等、子育ての終わった世代の経験を活かすことにより、サービスの受け手である子育て世代が、サービスの担い手になる仕組みを推進する事業であり、今年度のKPIは、ICTの新規活用者20名としている。

また今年度、この事業に併せて子育て世代やエイジレス世代の行動データ等を蓄積し、ビックデータの基盤づくりを実施する。

平成29年度から平成32年度までの中期段階

では、住民の行動データの分析を行い、新たな住民サービスの提供。住民の特徴にマッチする村の共助活動への参加促進を図り、住民の参画機会と役割意識向上により、本村が目指す共助のまちづくりの共感づくりを推進する。

具体的には、住民行動データの活用により住民の属性や行動等のデータを分析し、住民とコミュニティのモデル化を行い、そのモデルから各共助活動にマッチする適切な人材を選定する仕組みを構築していく。

例えば、地域活動に関心がある方とない方では必ず行動に違いがある。関心がある方にはそれぞれ特徴があり、そのデータの細分化により、どんな活動に適するかを判別し、マッチングを推進していく。

一方、地域活動に関心がない方にも効果的

な情報を提供する事で、地域への関心を高めていけるような仕組みも構築していく。

KPIは、複数年にまたがる事業なので、1年ごとに検証を行い、PDCA(※3)に基づき設定していきたいと考えているが、単年度のKPIとなる

のは、新たな子育てサービスの数と地域に参入する住民の数である。

村総合戦略の目標達成につながるよう試行錯誤を繰り返しながら遂行する。

防災行政への取組 みについて

台風10号の局地的



サイレンと白岩川(交益橋から下流)

豪雨により、岩手県岩泉町で川が氾濫し濁流が高齢者グループホームを飲み込み、入所していたお年寄りが犠牲になった。

この事例同様、当村でも同じようなリスクが常態化している。

舟橋村の下流最端である舟橋地区に村が建設した特別養護老人ホームがあり、白岩川及び細川が増水により氾濫すれば、この地区一帯が冠水する。これまでも白岩川の氾濫及び堤防の決壊で水害が起きており、直近でも7月27日の立山町上流の局所豪雨により白岩川が増水し、夜中の3時頃、特別養護老人ホームの駐車場や、隣接する団地内道路、周辺農道、田畑が冠水した。この時は、排水路が逆流し水路から溢水した水により一帯が冠水した。幸い堤防決壊までには至らず4時過ぎには排水路の逆流が止ま

り、水が下流方向へ流れ出し、事なきを得た。しかし、今後も同様のことが繰り返されることは明らかであり、岩泉町の例を教訓に国や県の関係部局と調整を図り、抜本的な治水対策に取り組むべきである。



対応と、今回の大雨を踏まえた村内における危険箇所を再度調査し、併せて河川管理者の県に要望していく。また、今回は水稲の出穂期のため排水路の水量が多かったことに加え、夜間に降水量が増えたため、水門等の調整も容易にできなかったことが要因として考えられる。

水害の恐ろしいところは、自分たちの周りで雨が降っていない時、あがった後などに発生する点や、夜間に急激に水かさが増える点であるので、住民の皆様には、日頃から気象情報、川の状態等に目配りをしていただきたい。

治水対策に最も重要なことは、県・村・地域・住民が各役割を明確にし、分担して対策を講じることであるので、今後とも地域住民と村との連携を図りながら治水対策を進めていく。

問 災害時の防災対策について
今後、より一層の防災対策に努める

吉川孝弘 議員



問 9月1日は「防災の日」だった。台風・高潮・津波・地震等の災害について認識を深め、それらの災害に対応する心構えを準備するための日である。舟橋村でも昭和44年の豪雨・白岩川の氾濫による、大洪水が思い出される。

災害が発生した時は、迅速な対応が出来るよう準備や体制を整えることが大切だが、災害時において建設重機は、がれきの処理な

ど、災害復旧作業時に高レベルな仕事量をこなして復旧スピードを上げる。災害直後から効率よく復旧作業を進める環境づくりを進めていくことが重要課題である。

舟橋村でも災害時応援協定等を10社ほどと締結している、重大な災害が起きた時などに力を発揮する重機等を保持する企業等が必要ではないか。

災害が発生したとき、迅速な対応が出来るよう、重機等を保持する企業等と協定締結



災害時の応援協定書

する必要がある。
また、大災害時を想定して災害救助ボランティアリーダーや災害救助ボランティアを育てていくことが必要不可欠で、組織作りや育成に力を入れることが大切であると考えるがいかがか？

答 総務課長 災害対策は、建築物の耐震化、河川改修などハード面の整備による、災害を未然に防ぐ防災対策が重要である一方、災害発生時における救援活動、復旧対策など、災害が発生した後の対応についても自治体に課せられた重要な役割であると考えている。

災害発生時の対応の一つに災害時の応援協定があり、緊急用燃料の供給、電気施設等の応急復旧、飲料水等の救援物資提供に関するもの等、10件の協定を国、県及び各種関係団体と締結している。

しかし、重機等を保有する土木関連企業等との災害協定は締結していない。重機は災害発生時の倒壊家屋の撤去や道路などのインフラの復旧に欠かせないものである。

先日、村内の企業から、今後、独自で防災士の養成を行い、昨年新築した倉庫内に土囊等も備える予定であり、災害発生時には優先して本村に協力していきたいという提案を

受けとらる。今後は、協定内容等の調整・検討を行い、準備が整い次第、当該企業と災害協定を締結し、より安心、安全な村づくりに努めていく。



災害時に無料化される自動販売機（役場）



シャボン玉ブレイク

月一回の、児童と遊びの時間「ほのほのタイム」がやってくる。「さて、今日は、何をして遊ぶのかな？」
そうか今日は、「シャボン玉遊び」をしよう。
各自いろいろな小道具を用意して早速シャボン玉づくり「シャボン玉飛んだ屋根まで飛んだ。屋根まで飛んで壊れて消えた。」

童謡とは、まさしく人の心をつかんでいる。学童はと言えば、そんなことは、お構いなし。大きなシャボン玉作る子、それをおいかけける子。小さなシャボン玉をよどみなく作る子。

シャボン玉か？学童か？あたり一面のシャボン玉の渦。学童の手は、シャボン玉液でびしょびしょ。これもまたよしかな？
やがて、学童は、シャボン玉つくりに飽きてくる。シャボン玉は学童の心から、露と消えていく。「シャボン玉消えた。飛ばずに消えた。生まれてすぐに壊れて消えた。かーぜかぜ吹くな、シャボン玉飛ばそう」

（児童と高齢者の交流）



問 機能別消防団員に消防団OBの活用は可能か？

答 任命にあたり処遇の検討が必要

川崎和夫議員



問 分遣所ができたことで、いままでよりも火災現場への到着時間の短縮が期待される。

しかしながら、舟橋分遣所は救急業務も担っており、また舟橋村消防団の方々も日中は仕事を持っている方も多いため不幸にして火災が発生した場合空白が生じる可能性もあるのではないかと。機能別消防団員は近年の消防団員不足の影響で、昼夜を限定した活動や特定の災害種

別のみ活動し、消防団活動を補完する役割が期待されている。

舟橋村役場職員も4名が機能別消防団員として活動している。消防団を引退された

方がその豊富な経験を生かして、それぞれの地域で消防団員として培ったノウハウの提供と自主防災組織との連携を行うアドバイザーとして活動してもらうことが可能か伺う。

答副村長 いつ発生するかわからない災害からの被害を最小限にとどめるためには、これまで以上に備えをしつかりした上で地域の防災力を高めていくことが大切である。

そのためには自主防災組織、自治会、消防団、行政等が一層連携し、地域住民一人ひとりが防災への理解を深

めることが重要である。消防団員の定数確保は、社会生活構造の変化とともに、全国的に大変困難な状況であり、村消防団においても、定足数を確保できず、各団員が勧誘を行い、また自治会長会議で団員不在地区へ現状を訴え、協力依頼している。

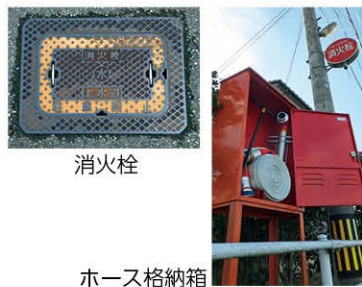
このような中、より多くの人に消防団活動に参加していただくために機能別団員制度が創設され、個々の能力やメリットを活かしながら活動している。

当村では、平日の日中は団員が手薄になり消火活動に支障が生じかねないことから、平成19年に役場職員4名を機能別団員として任命している。

消防団を引退した方が、機能別団員として活躍できないかとの質問であるが、活動されることは「自分たちの地域は自分たちで守る」地域コミュニティ

の強化につながり、地域防災力を高める有効な取り組みと考えられる。

しかし、機能別団員の身分は、非常勤特別職の地方公務員となるので、任命にあたり報酬等の処遇や活動内容の検討も必要となる。



消火栓

ホース格納箱

消火栓の取扱い基準について

問 舟橋村の消防体制は、分遣所ができるまで、自主防災活動の一環として、初期消火のための消火栓、消火器の操作法等を消防団の指導のもと訓練を実施してきたしてわけであるが、常備消防に変わって自主防災組織として

消火栓の扱いがどの様な位置づけになるのか明確になっていない。消火栓の扱いと基準を住民に示すべきではないか。

答総務課長 平成25年3月31日に東部消防組合が業務を開始するまで、当村は消防非常備自治体であった。そのため、消防団等が火災現場に到着するまでの間、地元一般住民の皆様方に消火栓による初期消火をお願いしていた経緯がある。

しかし、平成26年10月1日には舟橋分遣所が業務を開始したことにより、常備消防による消火活動の開始が、早まったところである。これらの経緯から、当村における初期消火活動に係る対応のあり方が、この数年間で大きく変わってきている。

消火栓は消防法施行令に定める基準に基づき、消防署員、消防団員が消火活動に使用するため村が設置した消火水利である。自主防災組織等一般住民の方のみで使用されると、思わぬ事故を招く恐れもある。

しかし、万が一同時多発災害が発生した場合、常備消防の現場到着に時間がかかる事態も想定され、自主防災組織等一般住民の方々が、消防団員とともに消火栓を使用されることは差し支えないと考えている。

国重自主防災会は、従来より、地元消防団員とともに消火栓の使用訓練を行ってこられた。かねてから議会で答弁しているとおり、災害時は「自分の身は自分で守る」という自助意識が最も大切なことなので、日頃から家庭で、あるいはそれぞれ地域で、万が一の事態への備えを確認していただきたい。



『小中一貫教育』先進地視察報告

総務教育常任委員会委員長 竹島貴行

現在、小中一貫教育を文部科学省が主導し、全国の21市町村で取組まれています。富山県では県の委託を受けた舟橋村で先駆的に取組みが始まりました。小中一貫教育は、小・中を通じて9年間の教育課程を系統的に執り行うもので、児童生徒の発達や中一ギャップへの対応、時代に合った教育の充実等を念頭に、既存の教育形態を見直し児童生徒の育成を図るものです。

議会では、教育へより関心を持ち、現状の把握と先進地の事例を検証しながら、子どもたちにとって最適な教育環境の構築を応援します。

① 9月27日：舟橋村の一貫教育取組み視察（舟橋小学校）
今年7月から始まった小中一貫教育の現状を視察しました。

舟橋村での一貫教育は取組み始めたばかりで、試行錯誤の面もありますが、小・中それぞれ目指す子ども像や授業像を明確にし、目標に向け色々と取り組んでいく教育現場の気概を感じました。

② 10月14日：小中一貫教育先進地視察（岐阜県白川村）
白川村では小・中の連続性を大切にし、9年間を見通した教育を行っています。聞く・話す・書くことを重視した教育を徹底し、子ども達の自主性を育むことへ熱い情熱を注ぐ教育委員会と教育現場の姿に感動しました。



上中：舟橋小学校6年生の英語の授業
下：白川小学校で伝統行事について学ぶ児童

地方創生特別委員会報告

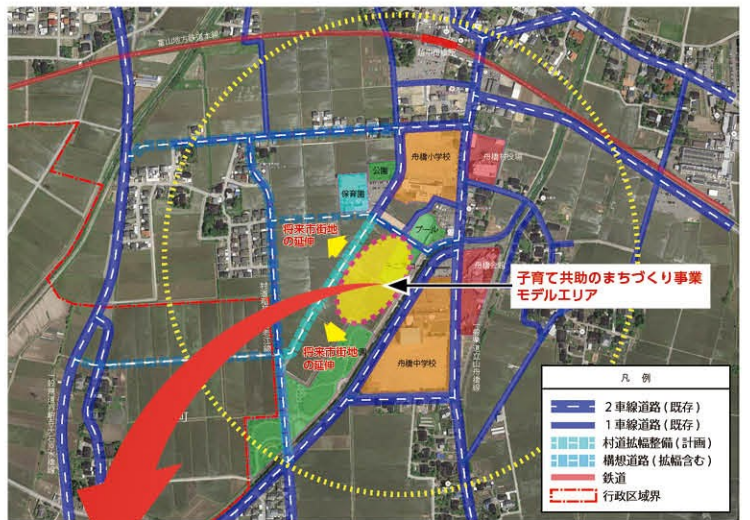
委員長 前原 英石

9月21日に開かれた「第5回舟橋村創生プロジェクト総合推進会議」に出席しました。

出席委員は金融機関、通信業者、富山YMCAや金岡造園などの事業実施者であり、オプザーバーである私と富山財務事務所長も含め、総勢40人余りで協議されました。

会議では、PDCAサイクル（※3）に基づく舟橋村総合戦略の平成27年度の評価、マスタープラン、平成28年度事業計画等についての説明及び協議がなされました。

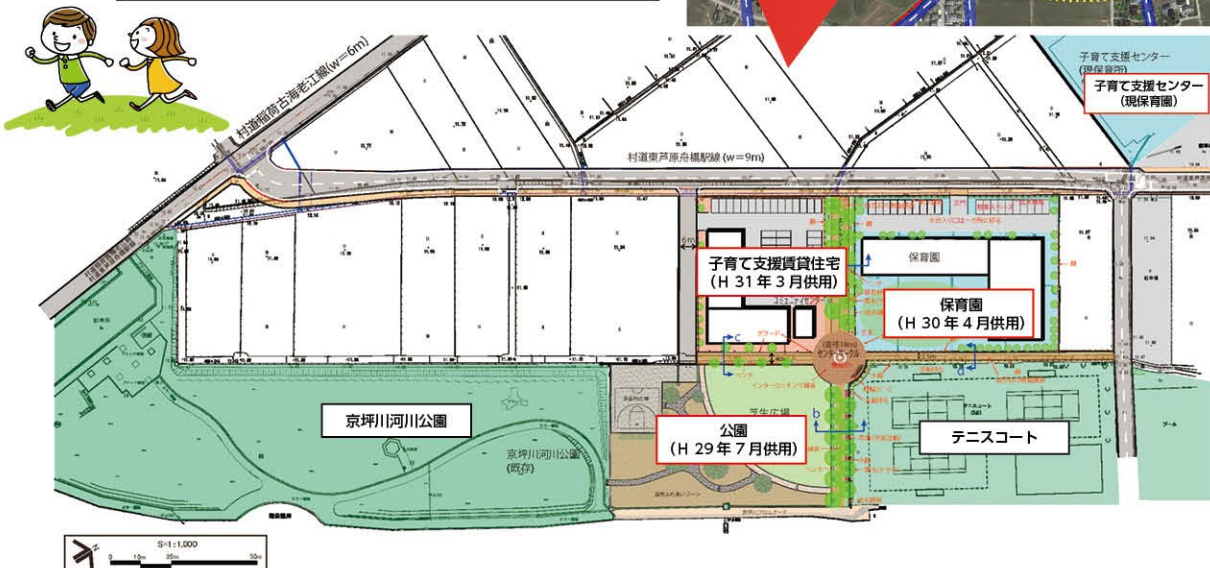
各視点から様々な議論がなされ、素晴らしい提案もなされておりましたが、広く公開するなり各種団体等を交えた会議であって欲しいと感じました。また、このプロジェ



クトに関する予算（先行型交付金・加速化交付金）を議会が承認してきているわけであり、今後も引き続き慎重に議論し議決していきたいと感じております。

さらに、このプロジェクトは財源を地方創生関連交付金に依存しているため、同交付金制度が終了した場合に継続できるのかについても、今後当局に問うていきたいと考えます。

京坪川河川公園周辺整備計画…H31年4月時の姿



用語の解説

※3 PDCAサイクル
事業を円滑に進める手法の一つ。Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）の4段階を繰り返すことにより、事業を継続的に改善していく。

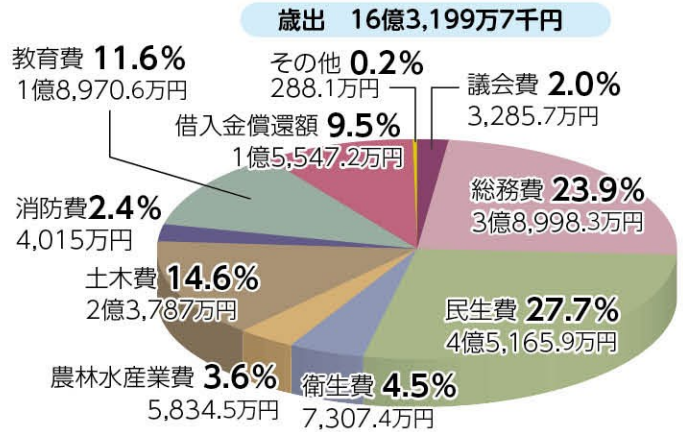
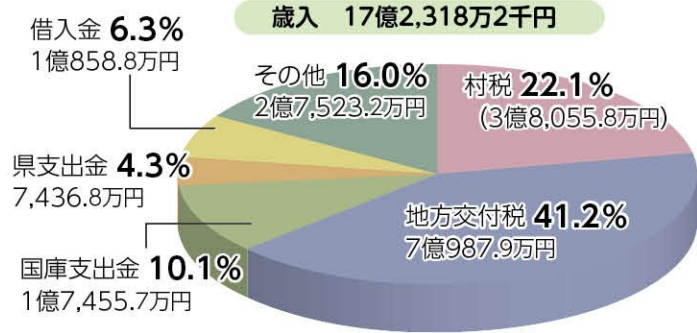
平成27年度舟橋村一般会計決算認定

〈監査委員会・審査意見〉

- 村民税・固定資産税・軽自動車税の滞納については、課挙げての徴収に努力が見られた。今後とも、より積極的に納税相談等を行い、滞納整理を進めていただきたい。
- 地方創生を含む大型プロジェクト等については、分かりやすい目標を掲げ、しっかりと住民に対して情報公開し、かつ意見を徴し、実のあるものにしていただきたい。
- 財政健全化指数等については、良好と思われる。村民の望む舟橋村の長期的将来像に向かい徐々に前進しつつあるが、舟橋村はどこに進むのか、舟橋村は村民に対するサービスをどのように具現化するのか、中長期的な年次計画を策定し、税金を有効に、かつ適正・公正・継続的に事業が執行されるよう努力していただきたい。



相談に応じる役場窓口



残ったお金 9,118万5千円

うち継続費通次繰越額 334万3千円
 うち繰越明許費繰越額 2,224万2千円
 うち翌年度繰越額 6,560万円

9月定例会 — 審議結果 —

〔常任委員会・主な審議内容〕

・総務教育常任委員会

Q 緊急情報告知システムの改修内容は？

A 竹内地区にスピーカーを1か所増設し、音量を上げる。

・産業厚生常任委員会

Q ひとり親家庭等医療費助成の所得基準とは？

A 県の児童扶養手当の所得制限に準じて、請求者本人及び生計を同じくする扶養義務者等の前年の所得で確認する。

〔本会議・審議結果〕

本会議において、次の議案を全会一致で可決・認定しました。

- ・舟橋村ひとり親家庭等医療費助成に関する条例一部改正の件
- ・平成28年度舟橋村一般会計補正予算（緊急告知システム改修500万円、保育園用地買収費用3676万円、東芦原地区農道舗装費246万円、海老江地区排水路改修費329万円等）
- ・平成28年度舟橋村国民健康保険事業特別会計補正予算
- ・平成27年度舟橋村会計歳入歳出決算認定の件（一般会計及び5特別会計）
- ・舟橋村教育委員会教育長任命の件及び関連条例の制定・一部改正

あともがき

最近、毎日のように新聞紙面には議員の政務活動費や政党交付金の不正受給などについての発表、そして議員辞職が相次いでいる。

どの議員であっても、初当選時には高い志を持って議員になったであろうと思うが全国的な非難を浴びる事態となっていることが残念でならない。

私自身も昨年四月に議員となったばかりの若輩者ではあるが、議員として一層の資質の向上を図るとともに、舟橋村議会としても透明性の確保を図る観点から、この議会だよりをはじめとして、いろいろな情報を幅広く発信していきたいと考えている。

(杉田・記)

議会広報特別委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 森 弘秋 |
| 副委員長 | 竹島 貴行 |
| 委員 | 前原 英石 |
| 委員 | 杉田 雅史 |

議会・議会だよりについて、みなさまのご意見・ご感想をお寄せください。

